

2013年版特集

ITS世界会議



ITS世界会議理事会



ITS世界会議理事・現地視察
(2013年・東京VIPディナー会場)



国際プログラム委員会



開催準備



開会式(2012年・ウィーン)



VIP挨拶(欧米AP各地域代表)
(2012年・ウィーン)



開会式・プレナリーセッション(PL)
(2012年・ウィーン)



エンターテイメント
(2007年・北京)



(2012年・ウィーン)



(2011年・オーランド)



(2010年・釜山)

功労者表彰



エンターテイメント
(2012年・ウィーン)

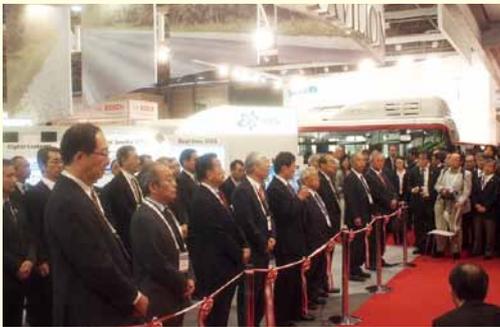


エンターテイメント
(2010年・釜山)

開会式

はこんな会議

特集



日本館・リボンカットセレモニー
(2012年・ウィーン)

展示風景



日本館・ITS世界会議東京2013PR
(2012年・ウィーン)



一般公開日
(2012年・ウィーン)

展示会



プレナリーセッション(PL)



エグゼクティブセッション(ES)



スペシャル
インタレストセッション(SIS)



テクニカルセッション(TS)



インタラクティブセッション(IS)



セッション



テクニカルビジット



ショーケース・デモンストレーション



(2011年・オーランド)



(2012年・ウィーン)

ウエルカムレセプション



(2011年・オーランド)

ポストツアー



(2012年・ウィーン)



(2009年・ストックホルム)



(2010年・釜山)



(2011年・オーランド)

GALAディナー



パッシング・ザ・グローブ(2012年・ウィーン)



ITS世界会議全体総括



優秀論文賞表彰

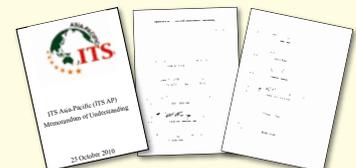


各賞表彰



閉会式(2011年・オーランド)

閉会式



(MOU署名式・2010年釜山)

ITS AP BOD会議

まとめ：ITS世界会議が始まって、2013年で20年目になる。ITS世界会議は年々回を重ねるごとに内容が広がり、参加者にとって会議の全貌をつかむのは大変である。そこで、ITS世界会議の基本構成を知っていただくと、概要がつかめ会議に参加し易くなる。このような視点から、特集Ⅰ-①「ITS世界会議はこんな会議」として一般的概要を示し、次に特集Ⅰ-②「第20回ITS世界会議東京2013」で具体的内容を紹介する。また特集Ⅱ「社会還元加速プロジェクト、及びITS Japan新交通物流特別委員会の取り組み」を紹介する。

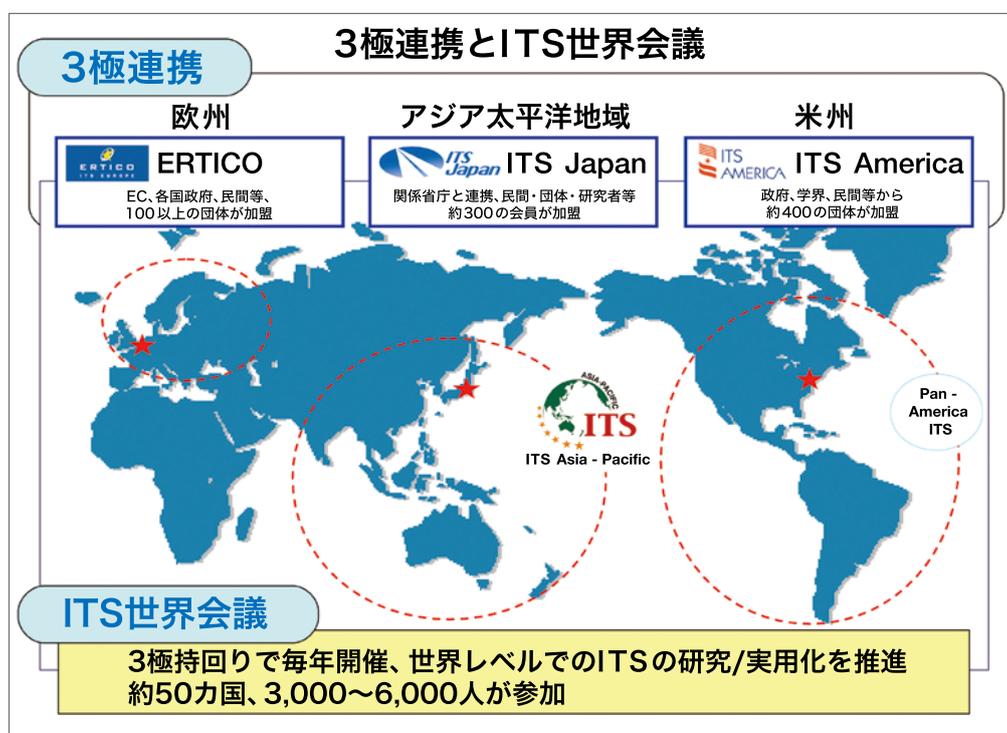
I-① ITS世界会議はこんな会議

1. ITS世界会議とは

ITS世界会議は、欧州、米州、アジア太平洋地域の世界3地域のITS団体が毎年共同で開催する国際会議である。その要点をまとめると下記ようになる。

- ・世界3地域を代表するITS団体が毎年共同で持回りで開催される。
- ・世界の3地域から産官学が参加する唯一大規模なITS国際会議である。
- ・毎年、50カ国以上、3,000～6,000人が参加する。

- ・専門家会議(セッション)、展示会、テクニカルショーケース等幅広いITSの内容が4～5日に渡って実施される。
- ・ITSを中心に技術開発、政策、市場動向等、幅広い視点から様々な論議と情報交換が実施される。
- ・最先端のITSについて総合的に理解・体験できる機会である。
- ・移動交通分野における諸問題を解決し、ビジネスチャンスを生み出す機会である。



2. ITS世界会議の基本構成

長い歴史と実績を積み上げているITS世界会議は近年ますます内容が膨らむ傾向にあり、初めて参加すると内容が

多岐にわたり全貌をつかむのが難しい。そこで、世界会議の基本構成を理解すれば、世界会議に効率よく参加でき

ITSの理解が深まるので、以下に基本構成を紹介する。

ITS世界会議の基本構成は下記のように多岐に渡っている。これらの全容については、毎年6月頃に発行されるプレリナリ・プログラムに世界会議のほぼ全容が記載されているので参加計画を作るのに役立つ。また、会議登録者には、配布バッグにファイナルプログラムが入っており、さらに会議期間中の正確な情報となる。

1) 開会式（オープニングセレモニー）、閉会式（クロージングセレモニー）

- ・開会式は、欧米アジアから大臣級の代表者が登壇し行われる世界会議キックオフのメインイベントである。
- ・近年では開会式で功労者表彰などが行われ、プログラム内容は主催者や理事会で決定される。多数の挨拶が続く出席者が疲れるので、途中にエンターテイメントで気分転換を図るなどの演出が挟まれる。
- ・閉会式は、世界会議閉会にあたり主催者から期間中の総括や優秀論文表彰等のセレモニーが行われる。次回以降の世界会議に橋渡しするセレモニーである。ここで主催者がどのような総括をするかがポイントである。総参加者数、参加国等の会議結果のデータが公表される。次回の世界会議開催者に、世界会議シンボルの地球儀がパッシング・ザ・グローブセレモニーにより手渡される。次回開催の挨拶やPRビデオが流されて閉会となる。

2) セッション

① 全体会議（プレナリーセッション、PL）

- ・PLは主要国・地域による世界共通の課題に対して、政策、技術、市場動向等幅広い視点から発表や議論が行われる基調講演である。世界のITS動向が大所高所からつかめる。登壇者の立場、経験を背景にしたITSオピニオンを理解する事がポイントである。PL1、PL2、PL3のように複数のPLセッションが設定される。世界のITS動向がつかめ参考になる。開会式、閉会式に合わせて行われる場合もある。

② エグゼクティブセッション（ES）

- ・ESは、大学、政府、企業の主導的な立場にある人々が登壇し、世界的な視野からITS普及促進のフェーズに基づくテーマについて発表・討議を行うパネルディスカッション形式の会議である。
- ・ESは、期間中数多く行われる。2012年ウィーンの世界会議の例では、ES1からES12までであった。

③ スペシャルインタレストセッション（SISまたはSS）

- ・SISまたはSSは、大学、政府、企業等のプロジェクト

実行責任者クラスが登壇し、欧州、米州、アジア太平洋地域の各地域の視点から、テーマを絞って発表・討議を行うパネルディスカッション形式の会議である。

開会式演出（ウィーン）



開会式演出（ウィーン）



開会式演出（ストックホルム）



閉会式（ウィーン）



プレナリーセッション



SSのテーマは各地域から提案され、多くのセッションが併行で行われる。ESよりセッション数が多い。ESが政策的な視点であるのに対して、SSはさらにテーマを絞ってプロジェクト実行責任者クラスが発表するので、具体的にITS内容をつかむことができる。

- ・2012年ウィーンのITS世界会議の例では、SIS01からSIS86までであった。

④ テクニカル/サイエンティフィックセッション (TS (SP/TP))

- ・セッションには、テクニカル (技術) 論文およびサイエンティフィック (学術) 論文が含まれる。論文はいずれも査読審査プロセスを経て採択されたものである。サイエンティフィック論文は、要求論文ページも多く学位取得時の実績に使われることもある。
- ・ペーパートピックスが国際プログラム委員会により定められているので、このペーパートピックスに従って論文が振り分けられる。しかし、応募数が少ないカテゴリーは他のスロットに合流する場合もあるので、参加に際して論文タイトルや発表者をよく見定めることが重要である。
- ・近年ではTP、SP合わせて、欧米アジア太平洋地域から800~1,000編の論文が投稿される。採択された論文は、プログラム委員会により、テーマ毎に発表時間、場所が決められる。
参加者は、自分のテーマに従ったスロットに行って発表を聞くことになるので、あらかじめ計画を立てて聴講することが重要である。また発表者には発表準備室があり、事前準備が行える。
- ・2012年ウィーンのITS世界会議の例では、TS118までスロットがあった。それぞれのスロットでは4~5編の技術発表が行われた。

テクニカルセッション



⑤ インタラクティブセッション (IS)

- ・ISは、発表者による短いプレゼンテーションの後、ポスターを利用してその前で発表者と聴き手が直接双方向 (インタラクティブ) に対話することを通して議論を深めることができる、いわゆるポスターセッションである。テクニカル論文もサイエンティフィック論文の両方が発表される。2004年愛知・名古屋会議から採用されたセッションの形式で、近年の世界会議で普及・定着している。
- ・2012年ウィーンのITS世界会議では、IS01からIS06まであった。

インタラクティブセッション



3) 展示会

- ・展示会は広いホール内に、ITS関連技術、商品、システム、サービス等について、国/地域、団体、企業、大学関係、ITS組織等がブース毎に展示される。最先端のITSを実際に見て体験する事ができる。
- ・展示会場には、ステージやプレゼンコーナーを設けてITSシステムについてプレゼンすることもある。
- ・展示会場にはブロードバンドやインターネットへの対応がネットカフェとして設定され、ICTを駆使した展示会が企画される。
- ・近年では、出展数が200~300の企業・団体数となり、出展数が多いので計画的に見学しないと全貌をつかむのが難しいほどである。
- ・オープニングセレモニーにリンクして、展示会場開会式が行われ、テープカット・セレモニーが行われる。

展示会会場 (ウィーン)



デモ会場 (ウィーン)



展示会交流風景 (ウィーン)



テクニカルビジット (ウィーン)



また、日本館の開会式など会場の中でのイベントが行われることが多い。それぞれの展示ブースでは、期間中に出展者が独自の交流会を催すことが多い。

4) ショーケースデモンストレーション

- ・ショーケースとデモンストレーションは、多くの世界会議ではデモンストレーションとして用語が使われることが多い。ウィーン会議でもデモンストレーションとして設定されていた。日本ではショーケースと合わせて用いられる。
- ・これはテクニカルビジットとともに、世界会議のセッション、展示会と並ぶ重要なコンポーネントである。展示会は、会場内に限定されて開催されるのに対して、テクニカルビジット、ショーケース・デモンストレーションは、会場外のフィールドを舞台とした「展示会」と位置づけることができる。最先端のITSシステムについて実際に試乗したり体験・見学することができ、ITSを理解することができる。

5) テクニカルビジット

- ・従来テクニカルビジットやテクニカルツアーは、開催地域によって呼び方が様々であったが、ERTICO、ITS America、ITS Japanの3極でのCEO会議にて、2013年東京で開催するITS世界会議より『テクニカル

ビジット』に統一することになった。

- ・テクニカルビジットは、交通管制センター、道路管理センター等ITSに関する施設訪問し実際のITSの基盤施設を見学するものである。ITS関係施設を直接見学する事により、ITSの実際の運用状況について理解を深めていただく。

6) ソーシャルイベント

- ・主催者の趣向を凝らした演出を楽しむとともに、ITS関係者や同伴者、家族等の参加者が親交を深めることができる貴重な場となる。ウエルカムレセプション、ガラディナーがある。
- ・ウエルカムレセプションは、オープニングセレモニー終了後にロビーやホワイエを使って行われる初日の交流会である。
- ・ガラディナーはその名の通り、交流夕食会であり主催国の名の通った場所での夕食会である。多くの場合着席の夕食会であるが、立席の場合もある。有料であり事前登録の参加券が必要である。食事中は舞台等でショウが行われいわばディナーショウである。また、参加者も参加できる演出もあり楽しめる。
- ・2012年ウィーン大会のガラディナーは王宮で、オーケストラのワルツを聞きながら着席でディナーを楽しみ、ワルツダンスも踊られた。途中から参加者もダンスをすることができた。

7) プレ/ポストツアー

- ・ITS世界会議の前後に隣接して設定されるツアーである。プリコンgress・ツアー、ポストコンgress・ツアーと呼ばれ、主として会場以外の地域を見学するもので、技術的要素の強い内容や、観光的な内容まで主催者と関係者が協力して企画する。
- ・せっかく世界会議に参加していただく機会を利用して、ITSの広がりやその国や地域について幅広く知っていただくという狙いである。

王宮のガラディナー風景（ウィーン）



8) ゲストツアー

- ・ゲストツアーは、参加者、会議登録者の同伴者が会議期間中に開催国の観光やその他の見どころに行く企画である。アカンパニーパーソンズツアーとも呼ばれる。観光、体験、文化的な内容などが幅広く設定されている、“おもてなし”ツアーである。

9) その他のイベント

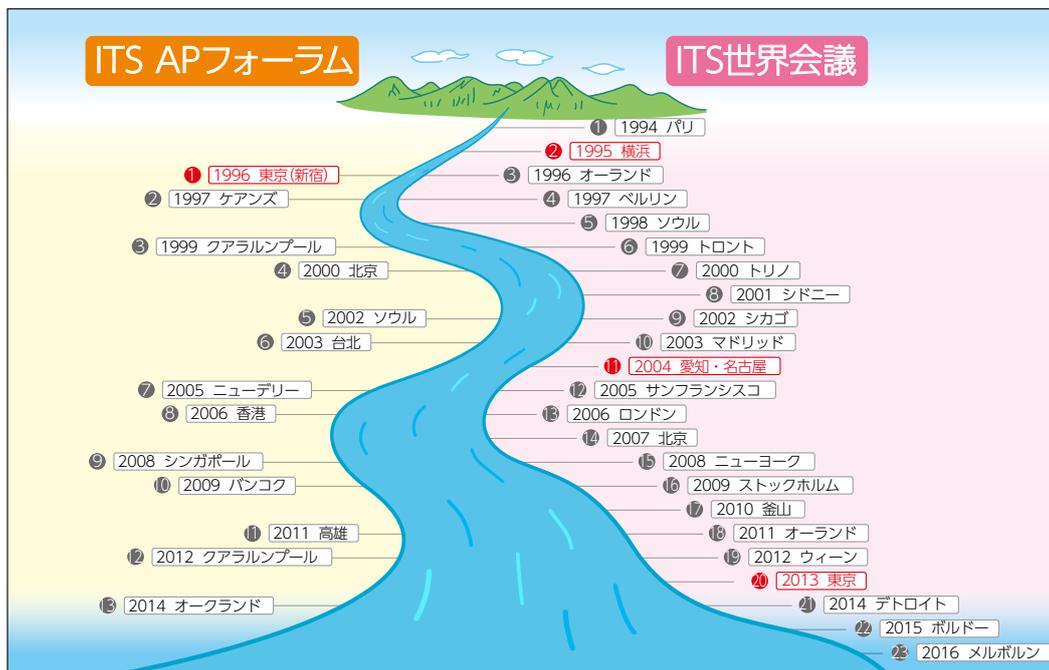
- ・アンセラリー・イベントとも言われ、世界中のITS関係者が集まる世界会議の前後を利用して、専門家団体やプロジェクト関係者によって行われる、会議やワークショップである。

3. ITS世界会議は20年以上の歴史実績のある国際会議

ITS世界会議は歴史が積み上げられている。第1回世界会議は1994年にフランスのパリで開催された。第1回ITS世界会議は、ITSと統一された呼び名ではなく、第2回の1995年ITS世界会議横浜からITS世界会議と統一された。その後日本では、2004年愛知・名古屋（第11回）で開催され、2013年東京会議で日本開催3回目、20回目となる。第1回目のパリ会議の準備段階や米国でのITSアメリカ年次総会の時代から数えると20年以上の歴史がある世界会議

である。

このようにITSの個別技術開発が中心となったファーストステージでは、世界のITS技術動向を知る機会となり、その後ITSの進化とともにセカンドステージでは、渋滞・事故・地球温暖化など「安全・環境・利便」に貢献するITSサービスが論議される場となった。そしてさらに時代が進み、東日本大震災、高齢化、街づくり等様々なニーズに応えるための次世代ITSを幅広く模索する時代へと進

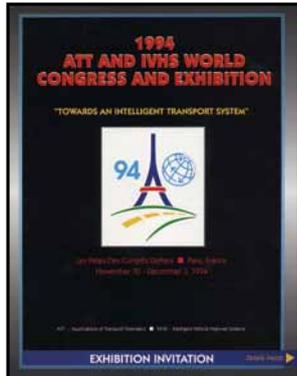


んでいる。

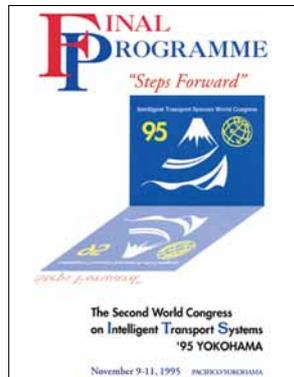
ITS世界会議に向けて、最新のITSについて検討が進められ、主催国内に影響を与えると同時に参加国/地域全体

のITS施策にも影響力を持つ国際会議に成長している。このため参加国/地域は年々増えており最新のITSの全貌を知るのに絶好の場となっている。

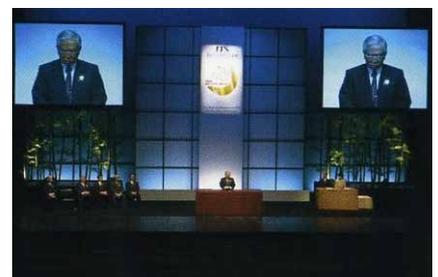
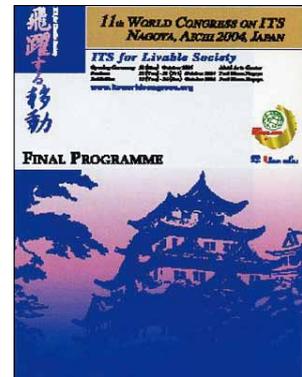
第1回 1994年パリ



第2回 1995年横浜



第11回 2004年愛知・名古屋



4. ITS世界会議は長い準備期間をかけて企画される国際会議

- ・ITS世界会議は、開催の約4年前に世界会議理事会で開催地が決定され、その後、全体企画、プログラム内容、国内外へのPR、開催期間中の運用等々の具体化が図られる。その間に多くの知恵が企画に結集される大変内容の濃い世界会議である。
- ・基本的には主催国の組織委員会が企画するが、開催までに何度か欧米アジア太平洋地域3極のITS世界会議理事会、プログラム委員会、個別会議等で内容検討が行われる。
- ・特にエグゼクティブセッション、スペシャルセッションのテーマおよび登壇者の調整、論文発表の部屋割り、モデレータの決定、テクニカルビジットの決定等、多くの決定が必要でありITS関係者の総力により生み出される世界会議である。
- ・世界会議には、産官学のVIP級参加者、産官学からの多様な一般参加者、また市民参加者等がある。また企業・団体等の展示会、最大では1000編近くの論文発表の運用、テクニカルビジット、ショーケース、デモンストレーション等実際にITS現場を見る体験企画、プレ/ポストツアーなど隣接するイベント、ガラディナーなどのソーシャルイベントの実施等幅の広い多様な内容となっている。
- ・世界会議は、このように長い期間かけて準備されてきた内容豊富な会議であり、これに参加することによって最新のITS技術、ITSの実際の活用例、今後の方向等が一度につかめ、有益な国際会議である。ITSに関係する方は必ず出なくてはならない会議と言えよう。

5. 各国/地域から参加者が集う

- ・ITS世界会議は学会とは違い、ITSに関係する政府関係者、自治体行政関係者、大学の先生や学生、企業関係者、一般市民等多様な方々が参加する。企業関係者も、自動車、部品、情報通信、電気、材料関係等多岐

に渡っており、ITSの分野の広さが実感できる。このように様々なジャンルの参加者が参加することはITSの幅の広さを意味している。ITS関係者にとっては、他の地域で取り組むITSについて知ることができる。

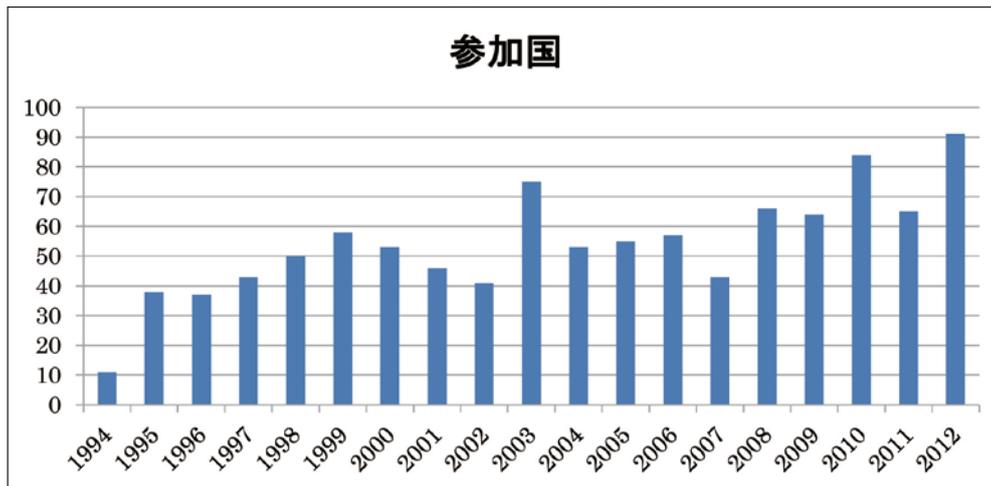
また日本で取り組んでいる ITS について国際的に発信できる場である。

- ・参加者においては、産官学のいわゆる VIP レベルの方々が、欧米やアジア各国/地域から参加され、国際会議としてもレベルの高い会議となっている。具体的な例について以下に示す。

1) 参加各国/地域数が増加

- ・第1回パリ ITS 世界会議では参加国/地域数11、第2回横浜では38であった。近年の参加国/地域数を見ると、ストックホルム64(第16回)、釜山84(第17回)、オーランド65(第18回)、ウィーン91(第19回)となっていて、スタートした当初より格段に参加国/地域が増えている。

ITS 世界会議参加国/地域数推移



2) VIP クラスが参加する世界会議

- ・第19回の2012年ウィーンにおける ITS 世界会議では、主催国を代表してオーストリア交通技術省大臣 Doris Bures 女史が出席された。日本からも国土交通大臣政務官若井康彦氏が出席された。またアジアから、インドネシア運輸省副大臣が登壇され、この他の国/地域からも要人が参加された。第18回2011年オーランドの ITS 世界会議では、米国運輸省長官 LaHood 氏、日本からは、経済産業省大臣官房審議官黒田篤郎氏が参加されている。
- ・近年では、東欧、中南米アメリカ、アジア太平洋地域など広域に ITS が拡大しており、交通政策に ITS を取り込もうとする動きが活発であり、ITS 世界会議に VIP クラスの参加が増える傾向にある。特にアジアでは、経済成長が著しく自動車が伸び交通問題も政策課題となっており、ITS への関心も高くなっているため、

ITS 世界会議にて情報収集や交流を図る動きが活発である。

- ・このように ITS 世界会議は、欧州、米州、アジア太平洋地域の各国/地域の国を代表する VIP クラスの多くの要人が参加する国際会議である。

3) 多様な参加者の世界会議

- ・ITS 世界会議の参加者は、VIP クラスばかりではない。各国/地域の行政関係者、自治体の実務担当者、大学の先生方、学生、民間企業の VIP クラス、実務担当者が参加する。近年では、更なる ITS の普及啓発を目指して一般市民の参加を促す活動も増えている。
- ・例えば、2004年 ITS 世界会議愛知・名古屋では、市民参加を掲げて土日まで世界会議を延長開催し、市民に ITS 世界会議に参加する機会を設定した。ウィーンでもこのような考え方が入っており、市民が ITS 展示を見学する日を設定していた。

VIP 挨拶



展示会一般公開日(ウィーン)



6. 国際活動の広がりを体感する世界会議

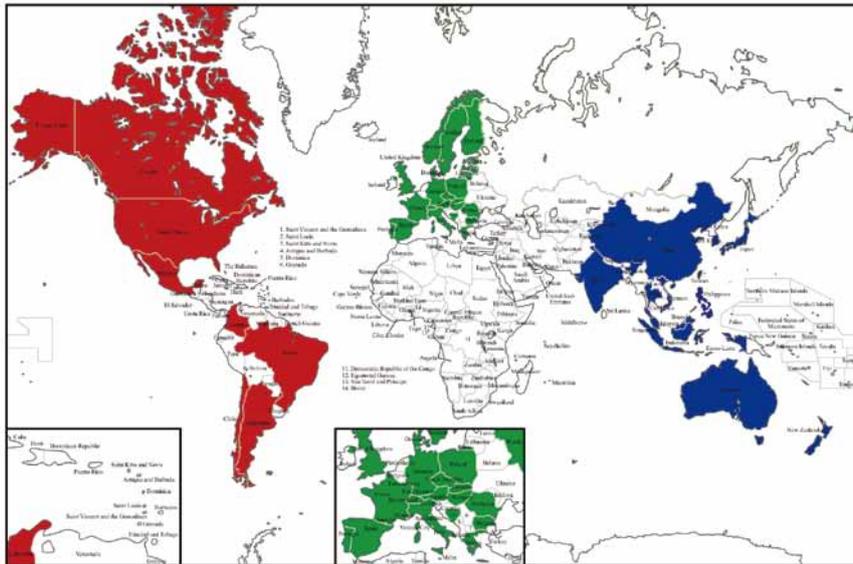
1) 欧州・米州・アジア太平洋地域の連携

- ・ITS世界会議は、欧州、米国、アジア太平洋地域の各地域持ち回りで開催されている。近年では、ITSが情報通信技術の進展と相まって、様々なサービスを生み出し、毎日の移動（モビリティ）に影響を与えるツールとなっており、世界会議での各国/地域の取り組みが参考になるようになってきた。ITS世界会議へ参加し情報交換する意義が認識され、参加者が増えている。
- ・欧州では、ITSチェコ、ITSロシア、ITSルーマニア等ITSが東欧に広がりITS組織の設立が増えている。また米州では、中央アメリカ、南アメリカで

ITSメキシコ、ITSコロンビア、ITSチリ、ITSブラジル、ITSアルゼンチンなどのITS組織の設立が広がっており、南北アメリカ州として連携する動きとなっている。

- ・また、アジア太平洋地域では、経済成長の伸び、自動車の増加、都市化の拡大など交通への影響が大きく、ITS組織を設立し積極的に政策にITSを取り込む動きが活発である。このような動きの中で、ITS世界会議に大臣級を送りITSの取り込みや国際交流をする動きが目立つ。
- ・このようにITS世界会議では、欧州、米州、アジア太平洋地域に広がるITSの国際連携の現状をつかむことができる。

ITS 組織設立の国 / 地域



2) アジア太平洋地域の連携の状況

- ・アジア太平洋地域では、1996年よりアジア太平洋地域フォーラム（当初の呼称はセミナー）にて連携が図られている。またこの他に、2010年には、ITS組織化した12の国地域がITS Asia-Pacificとして覚書を締結し新しい組織連携が始まった。

- ・ITS世界会議とITS APフォーラムは連動しており、アジアの組織連携は欧米にも影響力を与えている。世界会議では、アジアからの参加者も多く、アジアのITS事情、交通事情、自動車事情、インフラ事情を知るのには良い機会となっている。関係者と交流する事により、国際的なチャンネルも増える。

ITS AP 理事会



ITS AP MOU



7. ITS世界会議参加のポイント

世界会議はこのように広範囲の内容を含むことがわかる。これらの内容が開催期間の間に運営されるので、初めて参加する場合はITS世界会議の全貌をつかむのが大変である。しかし、ある程度骨格を知って参加すればITS世界会議から効率的に最先端のITSの状況をつかむことができるので貴重な経験となる。

参加方法についての定見はないが、参考に下記のような準備をすると有効にITSの知識を得ることができるのでポイントについて紹介する。

- ①自分の興味のあるITS分野を中心にITS世界会議参加の目的を明確にする。すなわち自分の発表があるか、ITS技術情報の収集か、研究事例の収集か、一般的にITS世界会議を体験し知見を広めるかなど。東京での開催の場合は、日本からの参加はしやすいので、ぜひこの機会に参加してITSについて知見を広げることをお勧めする。
 - 論文発表者の場合：論文発表の時間、部屋、データの受け渡しに注意、発表者準備室が用意される。発表はモデレータの司会で進行する。経歴表の準備やQ&Aに備えて発表に関する周辺情報を準備しておくことよい。
 - 論文聴講者の場合：テーマと発表者を絞って聴講。ITS Japan 発行の日本語版セッション概要が役立つ。
 - セッション発表&聴講の場合：PL、ES、SIS等セッションの性格をよく知って聴講するとよい。PL、ESは大局的な内容がつかめる。SISはさらに個別テーマに焦点を当てている。
 - ITS技術情報収集の場合：展示やテクニカルビジット、デモ等の実物を体験すると有効である。特にデモは主催者がテーマ性を持って最新のITSを紹介する。主催者が企画するテーマをよく理解して参加するとよい。
 - 研究事例の収集：技術的視点か一般的な動向かを明確にする。各セッション、論文発表のテーマを理解して出席セッションの的を絞ること。
 - 一般的体験の場合：開会式、閉会式、PL、ES、展示会、デモ、テクニカルビジット等により概略のイメージがつかめる。自分の参加時間に応じて参加計画を作る。ガラディナー等への参加も交流として有効な場である。
- ②多くのセッションが併行して行われるので、期間中の

参加計画を作り計画的な参加をすることが重要である。2012年ウィーンのITS世界会議では、いつも18セッションが併行に開催されていた。

- ③事前に主催者がプログラムを公表するので、これらの内容から会議についての情報を得る。特にプレリミナリープログラムは、ファイナルプログラムの構成に非常に近いので、この内容から登録内容を含めた自分の参加計画を作ることが望ましい。
- ④セッションの内容が英語でプログラムに公表されるが、すべてを把握するのに時間がかかる。この手助けとして、ITS Japan 国際委員会では、毎年セッション内容を解説した日本語版の「ITS世界会議・セッションの概要」を発行している。この内容は、世界会議のセッション参加計画を作成するのに大変役立つので参考にすることをお勧めする。

ITS Japan 発行セッションの概要 ⑤世界会議に参加した経験



者から参加の体験談を聞き、自分のイメージを早めに固めることがポイントである。また会議が近づくと、ITS Japanでは世界会議の概略解説会を行う。この情報やHP情報を総合的に収集し、世界会議のイメージを固めると参加の参考になる。

以上紹介したように、ITS世界会議は次世代モビリティ社会について、様々な視点から考える場である。毎年欧州、米州、アジア太平洋地域の3極持回りで開催されている。2013年では東京で開催され、身近にITS世界会議が身近に体験できるので、ITSを通じて次世代社会を考える絶好の機会である。ぜひこの機会を逃さず参加いただき今後の社会構築に向けてITSへの理解を深めていただくことを期待している。